

事例 13 北海道当別町

人 口	20,649 人
高齢者数	3,628 人
高齢化率	17.57%
担当部署	保健福祉課

1 市町村の概況

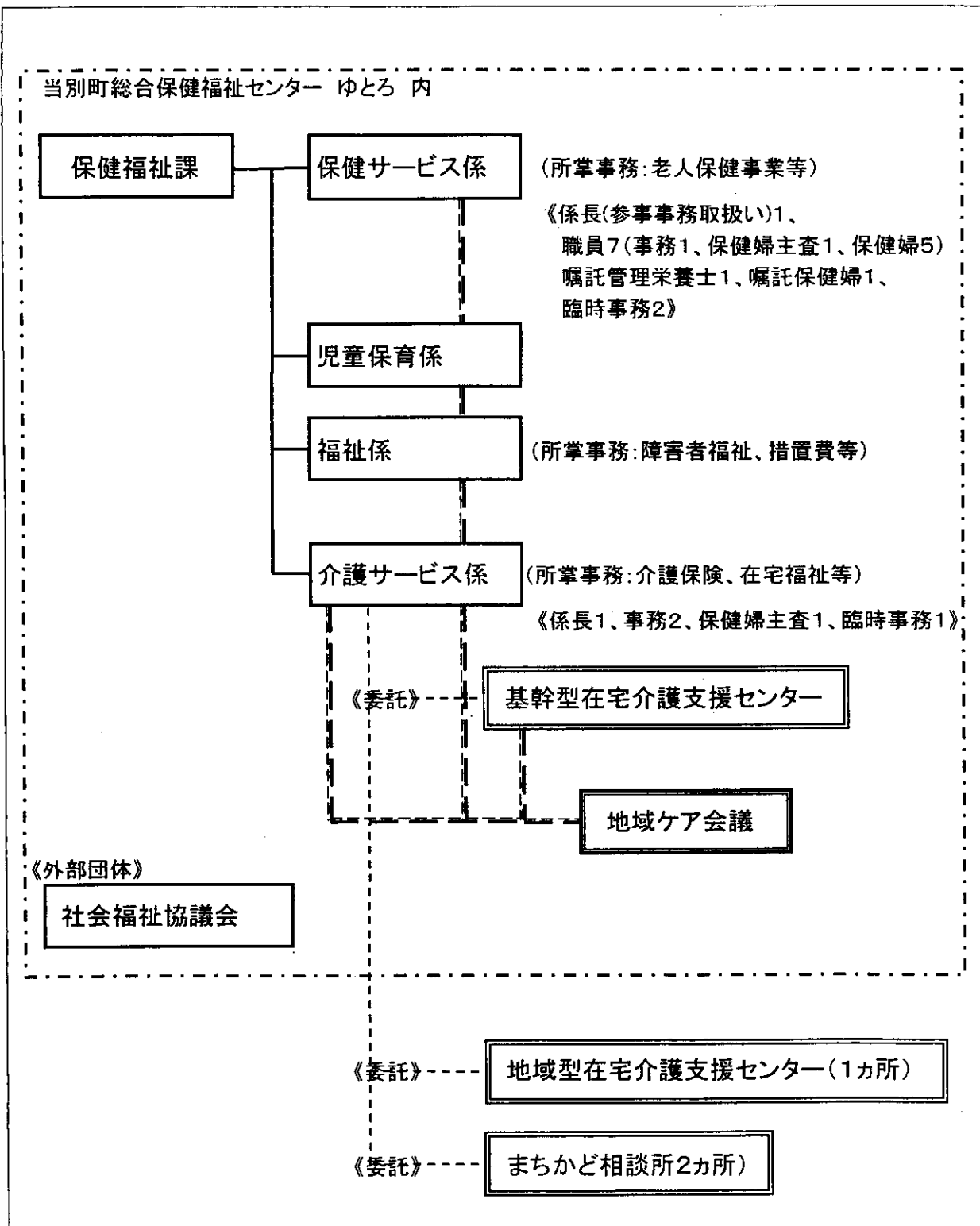
市町村概要	当別町は、道央圏石狩支庁管内の東北部に位置し、東西 26km、南北 47km、422.71km の面積を北部に有しており、西南は石狩川を隔て札幌市と相対しています。
	当町の人口は、昭和 36 年の 19,839 人をピークとして、減少に転じ、平成 2 年の国勢調査では、15,825 人、世帯数 5,370 戸まで低下しましたが、昭和 63 年に開通した札幌大橋はさらに札幌との距離を縮め、西部地区などの宅地造成が急増。平成 4 年から年率 5.7% 程度の増加傾向を示し、平成 8 年度には 20,000 人を超えましたが、その後、人口の伸びは鈍化傾向にあります。 かすみ草の集いを実施している西部地区は、特に転入者が多く見られる地域の一つとなっています。

人口	20,649 人		高齢者数(高齢化率)	3,628 人(17.6%)					
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯					
	5,134 戸			単独世帯	65歳以上夫婦のみ世帯				その他
				461 戸	621 戸				1,500 戸
要介護認定(申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計
	9	3	30	190	105	55	58	43	492

(平成13年11月1日現在)

社会資源状況	指定居宅サービス事業所 (か所数)	訪問看護 (3) 通所リハ (1)	訪問介護 (2) 短期入所系 (2)	通所介護 (1) その他 (2) 痴呆対応型共同住居
	指定居宅介護支援事業所 (か所数)	5か所		
	保健センター 在宅介護支援センター (か所数)	当別町総合保健福祉センター「ゆとろ」(1か所) 在宅介護支援センター(基幹型 1か所:ゆとろ内) 在宅介護支援センター(地域型 1か所)		
	介護予防事業の拠点となりうる場(か所数) (公的施設以外も含む)	当別町総合保健福祉センター(1か所) 西当別コミュニティーセンター(1か所) 町内温泉・銭湯(3か所)		
	介護予防事業の担い手となりうる組織・団体 (組織・団体数・人員数)	かすみ草の集い	地域スタッフ	1団体 34名
	友遊会	地域ボランティア	1団体 42名	
	ボランティア連絡協議会登録団体		20団体 289名	

2 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



3 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか？</p>	<p>()関連(類似)事業があった。 →問2～問4へ (○)関係(類似)事業はなかった。 →問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか？ また、その事業内容についてもご記入ください。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか？</p>	<p>()行った ()行っていない ↓ (具体的方法)</p>

3 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問4) 従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となった部局はどこか？ ・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？ 	
<p>(問5) (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。 今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	<p><中心となった部局> 保健福祉課保健サービス係 北海道医療大学看護福祉学部 社会福祉協議会</p> <p><きっかけ・判断></p> <p>①町民からの問合せの中で、痴呆はないが閉じこもりの人が利用できるサービスはないかという問合せが複数あり、そのニーズに応え、小グループでも茶話会や軽体操などをし、集う機会を持つことでも効果があると感じていた。</p> <p>②大学が行った、75歳以上高齢者の外出と健康に関する訪問調査の中で、地域の中には、家族の同居の有無にかかわらず閉じこもりの人がいることがわかった。外出先としては、身近な地域会館が主な外出先であること、また、交流・楽しみのために外出する場のある人の方が、健康観が高いことがわかった。</p> <p>③町議会の中で、「機能訓練事業を地域会館で実施できないか」という趣旨の質問が出され、行うべき事業としての後押しがされた。</p> <p>④町でヘルパー資格養成に対する助成を行っていた。</p> <p>⑤社会福祉協議会にボランティアセンターができ、ボランティアの活動の拠点が組織され始めた。</p> <p>⑥町民自身が行政依存の傾向や、痴呆を抱える家族の中から地域の理解がないという声があがっていた。地域が変わることが必要だと感じていた。</p> <p>上記の情報より、高齢者にとって外出しやすいと思っている地域会館で、閉じこもりの高齢者を対象に、地域住民と一緒に集いはできないか、企画から実施まで一緒に行っていこうという機運が高まった。</p>

4 「介護予防事業」の企画立案体制について

*資料1 資料2

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか ・ 学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・ 高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？ ・ どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？ 	<p><協議方法> プロジェクトスタッフ(北海道医療大学、社会福祉協議会、町保健婦)と住民が、意見交換を一緒に行いながら、それぞれの思いの共有と、事業に関する合意を重ねていった。</p> <p><学識経験者> プロジェクトスタッフとして、本事業を一緒に企画・運営・評価している。</p> <p><住民参加の機会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生児童委員との情報交換 ・ 対象地域役員(町内会長、民生児童委員、保健推進員、福祉委員)への説明会と意見交換 ・ ボランティア説明会 <p>上記を経て公募によりこの事業に賛同する住民(地域スタッフ)と共に本事業の企画運営をしている。</p> <p><企画の中心> プロジェクトスタッフ、地域スタッフが中心となって企画運営</p>
<p>(問2) 「介護予防事業」を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。 貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・ 事業対象者の選定方法はどうか？ ・ 事業に従事する人材をどの要に確保するか？ ・ 既存の設備の利用が可能か？ ・ 新たな設備が必要か？ ・ どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<p><ニーズ把握> 住民への説明会、訪問活動の中等</p> <p><対象者の選定> 対象者としては、身体機能では隣近所に外出できるが、あまり出ない、または1人では出かけられない人。知的機能では、軽度物忘れなどで閉じこもっている、おおむね65歳以上の高齢者。 地区選定としては、高齢人口や転入者が多く、住民が歩いて参加することのできる拠点のある地域。</p> <p><人材確保> 一般公募(回覧)、ボランティアセンターを通しての周知、ヘルパー受講助成した方への周知</p> <p><既存の設備の利用> 可能(バリアフリーで、調理室があり、みんなが集える設備の会場(地区コミュニティーセンター)で実施した。)</p> <p><新たな設備整備> 不要</p> <p><予算> 大学より研究費(平成11年度～) 介護予防事業として確保(平成13年度～)</p>

5 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入してください。</p> <p>※ 事業の実施要綱、事業概要があれば添付してください。</p>	<p>事業名: かすみ草の集い 開始時期: 平成11年7月 実施回数: 月1回(10:30~14:30) 実施体制: プロジェクトスタッフ、地域スタッフ</p> <p>事業に関する打合せを月1回(半日)を実施。また、事業終了後、反省会を実施。 ・研修に関しては、レクリエーション研修などを地域スタッフに伝え、希望者は自主参加。(打ち合わせ、反省会の中で意見交換する中でも学びになっている。)</p> <p>事業予算: 大学研究費より、144,400円(平成13年度) 介護予防・生活支援事業: 補助金(3/4) うちかすみ草の集い分: 40,000円(送迎費用分)</p> <p>事業所管課: 保健福祉課</p> <p>※ 事業目的、対象者、事業内容については別紙のとおり 資料3</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付してください。</p>	<p>地域への説明会</p> <p>町内回覧にて、対象地域に全戸配布 資料4 資料5</p>

5 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付してください。</p>	<p>資料6のとおり</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>参加者～・事業参加者数の増加 ・本人の健康度自己評価の向上 ・他の参加者、地域スタッフとの交流の増加</p> <p>地域スタッフ～・閉じこもりなどに関する理解の共有 ・他の参加者、地域スタッフとの交流の増加(地域への親しみを持てるようになった)</p> <p>・事業運営力が高まった。資料11</p> <p>保健サービス係～・地域の状況(閉じこもり・痴呆などに関する相談)などが地域スタッフや参加者から寄せられるようになる。</p>

5 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5) うまく事業を進めるために工夫している点などがあれば記入してください。</p>	<p>参加者に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に参加者への訪問を行っている ・ 集いの中で、必ず担当が付き、1対1で対応できる。(来てよかったと思えるような対応を、地域スタッフが考えられる) ・ 年間計画を立てる際などに、必ず参加者の意見や特技を生かしながら立案している。 <p>地域スタッフに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 準備会、反省会など、意見を交換する機会をしっかりと設け、その中でそれぞれの思いを共有しながら、運営することができている。 ・ 年間計画を参加者の意見を踏まえ、地域スタッフと共有しながら決定することができる。 <p>プロジェクトチームに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな課題など、検討が必要な際には、会議を開き方向性を確認していくことができている。(現在、プロジェクトメンバーは、大学、社会福祉協議会、保健福祉課に加え、在宅介護支援センター、保健所支所もメンバーとなって話し合われている。)
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、平成11年7月より「かすみ草の集い」で7地区、平成13年4月より「友遊会」で20地区に対して実施しているが、それ以外に対して、今後の体制の検討をしていくこと。(現在は、機能訓練事業 A型でフォロー) ・ 「閉じこもり」の状態であるが、出たくないという場合のフォロー体制。 ・ 「友遊会」をはじめるとあたっては、対象地域の75歳以上高齢者全戸訪問を行っているが、「かすみ草の集い」対象地域では、全戸訪問を行っていないため、閉じこもり者が潜在している可能性がある。
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられる対応策等あれば記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施地域以外の、その地域の実情に合わせた、対応策の検討。 ・ 個別フォローなど、個々に合わせた支援。

6 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する(直轄・委託)保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>① 各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p> <hr/> <p>② 具体的な評価方法について記入してください。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付してください。</p>	<p>(○)行っている。→②へ</p> <p>()行っていない。</p> <p>資料7のとおり</p> <p>* 資料8 資料9 資料10</p>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>① 介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>検討中</p>
<p>② 各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入してください。</p>	<p>添付資料参照</p>

地域参加型閉じこもり予防事業（機能訓練事業B型）
実施要領

9 実施方法

(1)実施訓練者

訓練は、保健婦等の保健・医療・福祉関係職員および地域のボランティアと一緒に実施する。

(2)訓練内容

- ① レクレーション、スポーツ、絵画、工芸等の創作を中心とした活動
- ② 交流会、懇談会および地域との交流を主体とした活動

10 記録の作成

- (1)対象者の名簿
- (2)訓練計画
- (3)実施台帳
- (4)訓練日誌
- (5)その他の記録

1 目的

心身の機能が低下している者に対して、心身機能の維持回復を図るために、必要な訓練を行い、日常生活の自立を助けることを目的とする。

2 対象者

身体機能では隣近所は自分で出かけられるがあまり出ない、または一人では出かけられない人。知的機能が軽度物忘れ、軽度痴呆などで閉じこもっている、おおむね65歳以上の高齢者を対象とする。

3 対象地域

かすみ草の集い：西当別コミュニティセンター周辺（7地域）
（仮称）ゆとろの集い：当別町総合保健福祉センター「ゆとろ」周辺（20地域）

4 回数

各々 おおむね月1回（年12回）とする

5 実施期間

1年間を1期間とし、訓練の効果等を勘案し、継続の可否の判定を行う。

6 実施場所

かすみ草の集い：西当別コミュニティセンター
（仮称）ゆとろの集い：当別町総合保健福祉センター

7 実施手続き

- (1)参加希望者はあらかじめ当別町に申し込みをする。
- (2)参加者について必要時、主治医との連絡をとり、状況を把握しながら適切な訓練を行う。

8 送迎

必要者については状況に合わせ送迎を検討する。

閉じこもり予防事業の参加人数とプログラム

年度	回目	参加人数					プログラム (体操、歌等毎回行うものは除く)			
		参加者	地域スタッフ	プロジェクトスタッフ	見学・実習等	合計	午前	午後		
平成11年度	1	7	10	15	8	23	1	34	話し合い(会名称・内容)	
	2	8	13	15	6	21	2	36	輪投げ、ボーリング	創作活動(押し花・木工・紙細工・折紙)
	3	9	20	14	7	21	1	42	大富豪じゃんけん、風船バレー	創作活動(押し花・木工・紙細工・折紙)
平成12年度	4	10	19	16	8	24	2	45	風船送りゲーム、買い物ゲーム	創作活動(お手玉・木工・紙細工)
	5	11	21	16	7	25	2	48	お手玉投げ、お手玉送り	クリスマスツリー用飾り作り
	6	12	19	15	7	22	3	44	クリスマスツリー飾り付け	ゲーム(お手玉投げ、ふわら)
平成13年度	7	1	20	17	8	25	4	49	ゲーム 陣取り	正月の遊び(双六、おはしき、百人一首)
	8	2	18	14	8	22	2	42	ゲーム ボール送りゲーム	創作活動 雑飾り作り
	9	3	17	14	7	21	1	39	ゲーム 風船相撲	創作活動 ペーパーフラワー 水仙

年度	回目	参加人数					プログラム (体操、歌等毎回行うものは除く)			
		参加者	地域スタッフ	プロジェクトスタッフ	見学・実習等	合計	午前	午後		
平成12年度	1	4	22	16	8	24		46	ゲーム 輪投げ	創作活動 絵手紙
	2	5	17	16	5	21	4	42	ゲーム 大富豪じゃんけん	交流 花見茶会、琴鑑賞
	3	6	22	21	5	25	1	49	ゲーム 風船バレー	音楽を楽しむ (演奏、鑑賞、回想)
平成13年度	4	7	21	18	6	24	3	48	北海道医療大学薬草園見学 花のスライド 鑑賞	
	5	8	22	16	4	20	2	44	トーンチャイム演奏 ゲーム ボーリング	創作活動 魚釣りゲームの魚制作
	6	9	18	18	7	25	5	48	トーンチャイム演奏 ゲーム 玉入れ	創作活動 押し花の飾り額
平成14年度	7	10	21	16	5	21	0	42	トーンチャイム演奏 ふわらふわらゲーム	健康学習 体力測定
	8	11	19	17	4	21	9	49	トーンチャイム演奏 ゲーム お手玉投げ	創作活動 スタンダードグラス
	9	12	20	22	6	28	2	50	創作活動 トールペイント サンタクロースの飾りもの	
平成15年度	10	1	21	19	6	25	1	47	餅つき	書の遊び 竹とんぼ、雑笑い
	11	2	21	24	8	32	1	54	ゲーム 陣取り	平成12年度の振り返りと 平成13年度計画
	12	3	22	17	6	23	3	48	室内パークゴルフ	健康学習 獲たきり・閉じこもり予防

年度	回	月	参加人数						プログラム（体操、歌等毎回行うものは除く）		
			参加者	地域スタッフ	プロジェクトスタッフ	スタッフ計	見学・実習等	合計	午前	午後	
平成13年度	1	4月	22	17	6	23	2	47	ゲーム 風船バレー	創作活動 ペーパーフラワ ーの水仙	
	2	5月	21	22	5	27	1	48	ゲーム 大富豪じゃんけん	カラオケ または 散策	
	3	6月	27	18	4	22		49	和菓子作り	ゲーム 竹とんぼ	
	4	7月	23	16	6	22	1	46	町保健福祉総合センター見学 ゲーム ペタンク	カラオケまたは入浴、談話	
	5	8月	23	18	5	23	3	49	音楽を楽しむ 音楽療法講師	ゲーム お手玉投げ	
	6	9月	21	18	5	23	2	46	百合が原散策 リリートレイン乗車	自由見学	
	7	10月	20	19	5	24	2	46	トーンチャイム演奏 体力測定	ゲーム 魚釣りゲーム	
	8	11月	23	16	4	20	1	44	トーンチャイム演奏 陣取り	健康学習 「転倒予防」	
	9	12月	25	24	5	29	1	55	トーンチャイム演奏 1年を振り返って	手品鑑賞	
	10	1月							餅つき	ゲーム 宝引き	↑ 予 定
	11	2月							ゲーム ピン倒し	年間計画話し合い	
	12	3月							ゲーム ベンチサッカー	創作活動 絵手紙	

当別町の閉じこもり予防事業の評価について

評価対象	評価項目（評価資料）	評価時点	評価者	評価方法
参加者	健康度自己評価、主な症状 外出日数、外出先 参加満足感	毎月	スタッフ	事業時の聞き取り
	体力測定（身長、体重、血圧、 10m歩行速度、握力、肺活量）	年1回 （10月）		事業時の測定
	生活機能（老研式活動能力指標） 知的機能（NMスケール）	年2回 （4月、10月）	スタッフ （欠席者 は自己記 入）	事業時の聞き 取り+欠席者へ の郵送質問紙
	主観的効果 （参加して良かったこと）	年1回 （3月）		
スタッフ	スタッフ満足感、	毎月	スタッフ	自記式調査票
	主観的効果 （参加して良かったこと）	年1回 （3月）		
事業全体	プログラムの計画や運営の評価 役割分担に関する評価	毎月	スタッフ	スタッフ会議で の話し合い
	年間計画に関する評価	年1～2回 （2～3月）	参加者・ スタッフ	事業時の話し合 い
	費用に関する評価	年1回 （3～4月）	スタッフ	スタッフ会議で の話し合い
	事業目標の達成度の評価 参加者数、スタッフ数等実績評価	年1～2回 （不定期）	プロジェ クトスタ ッフ	プロジェクト会 議での話し合い

スタッフ＝地域スタッフ（住民ボランティア）、保健婦、社会福祉協議会職員、
大学研究者の総称。

プロジェクトスタッフ＝町保健福祉課職員、保健婦、社会福祉協議会職員、
大学研究者など

*各評価データの分析は、量的データのデータ入力、基礎資料作成等は主として北海道
医療大学地域看護学部門が行い、分析はプロジェクト会議（年2～3回）にて話し合
いながら協働で行っている。